

CASBEE-建築(新築)2014年版
新北九州市立八幡病院■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.6
Q1 室内環境			0.40	-	-	3.7
1 音環境		3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音		3.0	0.40	3.0	0.40	
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境		3.7	0.35	3.4	1.00	3.7
2.1 室温制御		3.7	0.50	3.0	0.50	
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性	1.ゾーン別に冷房・暖房の選択が可能	5.0	0.38		-	
2.2 湿度制御	2.病室、診察室等、主たる室の湿度を年間を通して50%を確保	5.0	0.20	5.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		3.1	0.25	3.0	1.00	3.1
3.1 昼光利用		3.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	0.60	
2 方位別開口			-		-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度	3.診療行為をする部屋、事務室等は500LXを確保	4.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		4.8	0.25	4.6	1.00	4.8
4.1 発生源対策		5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質	4.全面的にF☆☆☆☆建材を採用	5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気		4.5	0.30	4.0	0.38	
1 換気量	5.換気量30m3/h人を確保	4.0	0.50	4.0	0.33	
2 自然換気性能			-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	6.外気取り入れ口は敷地周辺状況と給排気口の離隔を考慮	5.0	0.50	5.0	0.33	
4.3 運用管理		5.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視			-		-	
2 喫煙の制御	7.全館禁煙(病院敷地内禁煙)	5.0	1.00		-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.6
1 機能性		3.1	0.40	4.4	1.00	3.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性	8.ベッドあたり8㎡以上、収納スペースとして各ベッド毎に床頭台を設置		-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応			-		-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観	9.天井高さ2.5m以上を確保		-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース			-		-	
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		3.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計	10.内外装に防汚性の高い、清掃の容易な材料を採用	4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
2 衛生管理			-		-	
2 耐用性・信頼性		4.4	0.30	-	-	4.4
2.1 耐震・免震		5.0	0.50		-	
1 耐震性	11.建築基準法に定められた50%増の耐震性を確保	5.0	0.80		-	
2 免震・制振性能	12.免震構造を採用	5.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数	13.JASS5の耐久性能の耐久設計基準強度F _q =24N/mm ² を確保	4.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	14.フッ素樹脂を標準を採用して使用者の更新間隔を長期化	3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	15.厨房排気ダクト、ホルマリン排気ダクトはステンレス製を採用	5.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	16.ステンレス管等の採用	4.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-	

2.4 信頼性	1 空調・換気設備	17.重要度の設定、重要度の高い系統への発電機からの電源供給	4.2	0.20		-	
	2 給排水・衛生設備	18.節水器具の採用、井水利用、受水槽に水栓を設置	5.0	0.20		-	
	3 電気設備	19.非常用発電機、手術系無停電電源装置、電気室の地上階設置	5.0	0.20		-	
	4 機械・配管支持方法		4.0	0.20		-	
	5 通信・情報設備		3.0	0.20		-	
	5 通信・情報設備	20.PHS等通信多重化、サーバ室の上階設置、サーバ用個別UPS設置	4.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.4	0.30	3.4	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり		3.8	0.30	3.8	0.50	
	2 空間の形状・自由さ	31.耐力壁がないため、壁長さ比率は0.1以下	3.0	0.60	3.0	0.60	
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.40	5.0	0.40	
3.3 設備の更新性			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性		3.4	0.40		-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.20		-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性	21.更新ルートの確保、マシンハッチの設置	3.0	0.10		-	
	6 バックアップスペースの確保		5.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			3.0	0.20		-	
1 生物環境の保全と創出			-	0.30	-	-	3.5
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.30		-	2.0
22. 周辺環境に溶け込んだデザイン			5.0	0.40		-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			23.Low-eガラスの採用により、BPI _m で0.88を達成	4.0	0.20		4.0
2 自然エネルギー利用			24.井水熱利用	4.0	0.10		4.0
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 0.84 住宅(専有部) -	4.0	0.50		4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)			25.高効率熱源、熱源の台数制御、VWV、VAV等の採用	4.0	1.00		
集合住宅の評価(3c)					-	-	
4 効率的運用			4.0	0.20		-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00		-	
4.1 モニタリング			26.BMSの採用	4.0	0.50		
4.2 運用管理体制			27.既存建物の消費エネルギー量の分析と運用後の目標値の設定	4.0	0.50		
集合住宅の評価					-	-	
4.1 モニタリング					-	-	
4.2 運用管理体制					-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.5	0.20		-	3.5
1.1 節水			28.節水型便器の採用、凝音装置の採用	4.0	0.40		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.3	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			29.井水利用	4.0	0.30		
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60		-	3.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.7	0.20		-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.6	0.70		-	
1 消火剤			2.0	0.33		-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.33		-	
3 冷媒			3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			30.運用段階でのCO2排出量の削減	3.6	0.33		3.6
2 地域環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			-	-		-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.33		-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.33		-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音			3.0	0.50		-	
2 振動			3.0	0.50		-	
3 悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	
1 風害の抑制			3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制			3.0	-		-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策			3.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	